

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5376832号
(P5376832)

(45) 発行日 平成25年12月25日 (2013.12.25)

(24) 登録日 平成25年10月4日 (2013.10.4)

(51) Int.Cl.	F I
E O 4 B 1/00 (2006.01)	E O 4 B 1/00 5 O 1 M
	E O 4 B 1/00 5 O 2 M
	E O 4 B 1/00 5 O 2 J

請求項の数 9 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2008-129174 (P2008-129174)	(73) 特許権者	307042385
(22) 出願日	平成20年5月16日 (2008.5.16)		ミサワホーム株式会社
(65) 公開番号	特開2009-275445 (P2009-275445A)		東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
(43) 公開日	平成21年11月26日 (2009.11.26)	(74) 代理人	100090033
審査請求日	平成23年4月22日 (2011.4.22)		弁理士 荒船 博司
		(72) 発明者	中谷 純
			東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミ
			サワホーム株式会社内
		(72) 発明者	増田 拓也
			東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミ
			サワホーム株式会社内
		(72) 発明者	佐藤 悦子
			東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミ
			サワホーム株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 バルコニー付き住宅

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

部屋とバルコニーとが、開口部を有する壁を介して隣り合うようにして配置されるバルコニー付き住宅において、

前記壁は、前記開口部の下部に位置するとともに、前記部屋の床とバルコニーの床との間に立設される下壁部を備えており、

前記部屋には、前記下壁部に当接して配置されるとともに、前記下壁部と略等しい高さに設定されるベンチが設けられており、

前記バルコニーには、前記下壁部に近接して配置されるとともに、前記下壁部と略等しい高さに設定されるデッキが設けられており、

前記ベンチの上面には座板が設けられており、この座板は、この座板の開口部側端部からバルコニー側に向かって延出することによって前記下壁部の上面に取り付けられた調整材を覆う延出部を備えており、

前記開口部にはサッシが取り付けられており、このサッシの下枠は、前記下壁部の上端部に固定されるとともに、前記ベンチの座板の延出部と前記デッキの開口部側端部との間に位置しており、

前記調整材は、前記サッシの下枠の部屋側端部と略等しい高さとなるように設定されていることを特徴とするバルコニー付き住宅。

【請求項2】

請求項1に記載のバルコニー付き住宅において、

10

20

前記ベンチは、前記開口部の幅寸法よりも幅広に設定されていることを特徴とするバルコニー付き住宅。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載のバルコニー付き建物において、

前記開口部を有する壁を除くバルコニーの周縁部から所定の間隔をあけて前記デッキが設けられており、このデッキと前記バルコニーの周縁部との間が植栽部とされていることを特徴とするバルコニー付き住宅。

【請求項 4】

請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載のバルコニー付き住宅において、

前記ベンチは、前記開口部から外れた位置に、凹型に形成された室内植栽部を備えることを特徴とするバルコニー付き住宅。

10

【請求項 5】

請求項 4 に記載のバルコニー付き住宅において、

前記室内植栽部の底部は、前記部屋の床となっていることを特徴とするバルコニー付き住宅。

【請求項 6】

請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載のバルコニー付き住宅において、

前記バルコニーには、このバルコニー内の空気を加湿冷却する加湿冷却手段が設けられていることを特徴とするバルコニー付き住宅。

【請求項 7】

20

請求項 1 ～ 6 のいずれか一項に記載のバルコニー付き住宅において、

前記デッキは、このデッキの上部に設けられることによって床面を構成するデッキ床を備えており、

このデッキ床と前記バルコニーの床との間が収納部とされていることを特徴とするバルコニー付き住宅。

【請求項 8】

請求項 7 に記載のバルコニー付き住宅において、

前記収納部は、上方に向かって開口する取り出し口と、この取り出し口を開閉する蓋部とを備えており、

この蓋部の上面には、上面が、前記デッキ床の上面と面一となる補助床材が取り付けられていることを特徴とするバルコニー付き住宅。

30

【請求項 9】

請求項 3 を引用する 請求項 7 または 8 に記載のバルコニー付き住宅において、

前記収納部は、前記植栽部側に向かって開口する取り出し口と、この取り出し口を開閉する扉部とを備えていることを特徴とするバルコニー付き住宅。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、部屋とバルコニーとが、開口部を有する壁を介して隣り合うようにして配置されるバルコニー付き住宅に関する。

40

【背景技術】

【0002】

従来、敷地が狭小であるために、十分な庭を確保することができない都市型の住宅等の建物においては、リビング等の部屋に望むバルコニーで栽培される花や観葉植物等の緑を、窓越しに眺めて楽しむといったことが行われている（例えば、特許文献 1 参照）。これによって居住者は庭にいるような開放感を得られる。

【特許文献 1】特開 2002-138571 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

50

ところで、部屋とバルコニーとの間に立設される壁に窓等の開口部を設ける場合、バルコニーから部屋内へと雨水が浸入することを防ぐために、開口部の下部に位置するとともに、側断面視において凸型に形成された跨ぎ段差状の下壁部が、部屋の床とバルコニーの床との間に立設される場合がある。

ところが、このような下壁部を部屋とバルコニーとの間に設けると、部屋からバルコニーを眺める際に、この下壁部が目に入ってしまったたり、部屋とバルコニーとを行き来する際に、この下壁部を跨いで行き来しなければならないため、この下壁部によって部屋とバルコニーとが分断された印象を受けてしまう場合がある。

【0004】

本発明の課題は、部屋とバルコニーとの一体感を向上させて開放感を得ることが可能なバルコニー付き住宅を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

請求項1に記載の発明は、例えば図1～図3に示すように、部屋1とバルコニー2とが、開口部4を有する壁3を介して隣り合うようにして配置されるバルコニー付き住宅において、

前記壁3は、前記開口部4の下部に位置するとともに、前記部屋1の床1aとバルコニー2の床2aとの間に立設される下壁部3bを備えており、

前記部屋1には、前記下壁部3bに当接して配置されるとともに、前記下壁部3bと略等しい高さに設定されるベンチ10が設けられており、

前記バルコニー2には、前記下壁部3bに近接して配置されるとともに、前記下壁部3bと略等しい高さに設定されるデッキ20が設けられており、

前記ベンチ10の上面には座板11が設けられており、この座板11は、この座板11の開口部4側端部からバルコニー2側に向かって延出することによって前記下壁部3bの上面に取り付けられた調整材3dを覆う延出部11aを備えており、

前記開口部4にはサッシ5が取り付けられており、このサッシ5の下枠5aは、前記下壁部3bの上端部に固定されるとともに、前記ベンチ10の座板11の延出部11aと前記デッキ20の開口部4側端部との間に位置しており、

前記調整材3dは、前記サッシ5の下枠5aの部屋1側端部と略等しい高さとなるように設定されていることを特徴とする。

【0006】

請求項1に記載の発明によれば、前記部屋1には、前記下壁部3bに当接して配置されるとともに、前記下壁部3bと略等しい高さに設定されるベンチ10が設けられており、前記バルコニー2には、前記下壁部3bに近接して配置されるとともに、前記下壁部3bと略等しい高さに設定されるデッキ20が設けられているので、前記下壁部3bが目に入り難くなるとともに、この下壁部3bを跨いで前記部屋1とバルコニー2とを行き来する必要がなくなる。しかも、前記ベンチ10とデッキ20とを、前記下壁部3bを介して連続的に、かつ略等しい高さとなるように配置できるので、前記部屋1からバルコニー2を眺めた際に、前記バルコニー2に配置されたデッキ20が、部屋1側に突出して配置されたような印象を与えることができる。

これによって、従来に比して、前記部屋1とバルコニー2との一体感を向上させることができるので、居住者は、前記部屋1からバルコニー2を眺めた際に、前記部屋1にいながらにして、庭にいるような開放感を得ることが可能となる。

また、前記ベンチ10の上面には座板11が設けられており、この座板11は、この座板11の開口部4側端部からバルコニー2側に向かって延出することによって前記下壁部3bの上面を覆う延出部11aを備えているので、この延出部11aで前記下壁部3bの上面を覆うことによって、前記ベンチ10を、前記バルコニー2側に突出させて範囲を広げたように見せることができる。これによって、前記ベンチ10とデッキ20とを、より連続的に見せることができるので、前記部屋1とバルコニー2との一体感を、さらに向上させることができる。

10

20

30

40

50

また、前記開口部 4 にはサッシ 5 が取り付けられており、このサッシ 5 の下枠 5 a は、前記下壁部 3 b の上端部に固定されるとともに、前記ベンチ 1 0 の座板 1 1 の延出部 1 1 a と前記デッキ 2 0 の開口部 4 側端部との間に位置しているので、このサッシ 5 の下枠 5 a によって前記ベンチ 1 0 の座板 1 1 の延出部 1 1 a と前記デッキ 2 0 の開口部 4 側端部とを連続的に見せることができるので、前記部屋 1 とバルコニー 2 との一体感を、より一層向上させることができる。

【0007】

請求項 2 に記載の発明は、例えば図 1 に示すように、請求項 1 に記載のバルコニー付き住宅において、

前記ベンチ 1 0 は、前記開口部 4 の幅寸法よりも幅広に設定されていることを特徴とする。

10

【0008】

請求項 2 に記載の発明によれば、前記ベンチ 1 0 は、前記開口部 4 の幅寸法よりも幅広に設定されているので、前記下壁部 3 b がより目に入り難くなるとともに、この下壁部 3 b を跨いで前記部屋 1 とバルコニー 2 とを行き来する必要がなくなるので、従来に比して、前記部屋 1 とバルコニー 2 との一体感を、より向上させることができる。その上、例えば前記ベンチ 1 0 が前記開口部 4 よりも幅狭に設定される場合に比して、前記デッキ 2 0 が部屋 1 側により広く進出してきたような印象を与えることができる。

【0009】

請求項 3 に記載の発明は、例えば図 1 に示すように、請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載のバルコニー付き建物において、

20

前記開口部 4 を有する壁 3 を除くバルコニー 2 の周縁部から所定の間隔をあけて前記デッキ 2 0 が設けられており、このデッキ 2 0 と前記バルコニー 2 の周縁部との間が植栽部 2 b とされていることを特徴とする。

【0010】

請求項 3 に記載の発明によれば、前記開口部 4 を有する壁 3 を除くバルコニー 2 の周縁部から所定の間隔をあけて前記デッキ 2 0 が設けられており、このデッキ 2 0 と前記バルコニー 2 の周縁部との間が植栽部 2 b とされているので、この植栽部 2 b において花や観葉植物等の植物を栽培することができる。これによって、夏季の室温の上昇を抑制できたり、居住者が安らぎ感を得られたり等の緑化による様々な効果を得ることができるので、このような植栽部 2 b が設けられたバルコニー 2 を眺める居住者にとって、快適な居住環境を形成することができる。

30

【0011】

請求項 4 に記載の発明は、請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載のバルコニー付き住宅において、

前記ベンチは、前記開口部から外れた位置に、凹型に形成された室内植栽部を備えることを特徴とする。

【0013】

請求項 5 に記載の発明は、請求項 4 に記載のバルコニー付き住宅において、前記室内植栽部の底部は、前記部屋の床となっていることを特徴とする。

40

【0015】

請求項 6 に記載の発明は、例えば図 3 に示すように、請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載のバルコニー付き住宅において、

前記バルコニー 2 には、このバルコニー 2 内の空気を加湿冷却する加湿冷却手段 8 が設けられていることを特徴とする。

【0016】

請求項 6 に記載の発明によれば、前記バルコニー 2 には、このバルコニー 2 内の空気を加湿冷却する加湿冷却手段 8 が設けられているので、このバルコニー 2 内の気温を下げる
ことができる。また、このようにバルコニー 2 内で加湿冷却された空気を、前記部屋 1 内
へと吹き込ませることができるので、前記部屋 1 内の気温を下げるのが可能となり、特

50

に夏季において、より快適な居住環境を形成することができる。

【0017】

請求項7に記載の発明は、例えば図1～図6に示すように、請求項1～6のいずれか一項に記載のバルコニー付き住宅において、

前記デッキ20は、このデッキ20の上部に設けられることによって床面を構成するデッキ床21を備えており、

このデッキ床21と前記バルコニー2の床2aとの間が収納部23（23A）とされていることを特徴とする。

【0018】

請求項7に記載の発明によれば、前記デッキ床21と前記バルコニー2の床2aとの間が収納部23（23A）とされているので、前記バルコニー2で使用する物品や外部で使用する物品を収納することができる。

【0019】

請求項8に記載の発明は、例えば図4および図6に示すように、請求項7に記載のバルコニー付き住宅において、

前記収納部23は、上方に向かって開口する取り出し口24と、この取り出し口24を開閉する蓋部25とを備えており、

この蓋部25の上面には、上面が、前記デッキ床21の上面と面一となる補助床材25aが取り付けられていることを特徴とする。

【0020】

請求項8に記載の発明によれば、前記収納部23は、上方に向かって開口する取り出し口24と、この取り出し口24を開閉する蓋部25とを備えているので、この蓋部25によって前記取り出し口24を確実に開閉できる。また、前記蓋部25の上面には、上面が、前記デッキ床21の上面と面一となる補助床材25aが取り付けられているので、前記デッキ20上に段差が生じることを防ぐことができ、前記デッキ床21上を障害なく歩行できる。しかも、これら補助床材25aとデッキ床21とを一体的に見せることができるので、前記蓋部25の存在を目立たなくすることができる。

【0021】

請求項9に記載の発明は、例えば図5および図6に示すように、請求項3を引用する請求項7または8に記載のバルコニー付き住宅において、

前記収納部23Aは、前記植栽部2b側に向かって開口する取り出し口24Aと、この取り出し口24Aを開閉する扉部25Aとを備えていることを特徴とする。

【0022】

請求項9に記載の発明によれば、前記収納部23Aは、前記植栽部2b側に向かって開口する取り出し口24Aと、この取り出し口24Aを開閉する扉部25Aとを備えているので、この扉部25Aによって前記取り出し口24Aを確実に開閉できる。また、前記取り出し口24Aが前記植栽部2b側に向かって開口しているので、物品を側方向から前記収納部23Aに収納したり、前記収納部23Aから取り出したりすることができる。

【発明の効果】

【0023】

本発明によれば、部屋には、部屋の床とバルコニーの床との間に立設される開口部の下部に位置する下壁部に当接して配置されるとともに、この下壁部と略等しい高さに設定されるベンチが設けられており、バルコニーには、下壁部に近接して配置されるとともに、この下壁部と略等しい高さに設定されるデッキが設けられているので、下壁部が目に入り難くなるとともに、この下壁部を跨いで部屋とバルコニーとを行き来する必要性なくなる。しかも、ベンチとデッキとを、下壁部を介して連続的に、かつ略等しい高さとなるように配置できるので、部屋からバルコニーを眺めた際に、バルコニーに配置されたデッキが、部屋側に突出して配置されたような印象を与えることができる。

これによって、従来に比して、部屋とバルコニーとの一体感を向上させることができるので、居住者は、部屋からバルコニーを眺めた際に、部屋にいながらにして、庭にいるよ

10

20

30

40

50

うな開放感を得ることが可能となる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0024】

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

なお、本実施の形態のバルコニー付き住宅は、壁や床、屋根といった建物の構成要素を予め工場にてパネル化しておき、施工現場でこれらのパネルを組み立てて構築するパネル工法で構築されるが、従来の軸組工法や壁式工法の木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造等の建物にも適用することができる。

【0025】

本実施の形態のバルコニー付き住宅は、図1～図3に示すように、部屋1とバルコニー2とが、開口部4を有する壁3を介して隣り合うようにして配置されるものであり、前記壁3は、前記開口部4の下部に位置するとともに、前記部屋1の床1aとバルコニー2の床2aとの間に立設される下壁部3bを備えており、前記部屋1には、前記下壁部3bに当接して配置されるとともに、前記下壁部3bと略等しい高さに設定されるベンチ10が設けられており、前記バルコニー2には、前記下壁部3bに近接して配置されるとともに、前記下壁部3bと略等しい高さに設定されるデッキ20が設けられている。

10

【0026】

すなわち、前記ベンチ10とデッキ20とを、前記下壁部3bを介して連続的に、かつ略等しい高さとなるように配置できるので、前記部屋1からバルコニー2を眺めた際に、前記バルコニー2に配置されたデッキ20が、部屋1側に突出して配置されたような印象を与えることができるようになっている。

20

また、前記下壁部3bが目に入り難くなるとともに、この下壁部3bを跨いで前記部屋1とバルコニー2とを行き来する必要がなくなる。

【0027】

ここで、前記部屋1は、例えば居住者や家族が普段いるリビングルームであり、このような部屋1に隣り合うようにして前記バルコニー2が配置されている。なお、本実施の形態の部屋1は、リビングルームに限られるものではない。

【0028】

前記バルコニー2は、例えばインナーバルコニーやルーフバルコニーであり、比較的広い面積を確保できるようになっている。

30

さらに、このバルコニー2には、図1および図3に示すように、前記開口部4を有する壁3に対向するようにしてルーバー6が設けられている。このルーバー6は、複数の長尺な羽板を上下方向に所定の間隔をあけて並設して形成されており、近隣からの視線を遮りながら、必要な日差しを取り込んだり、風を取り込むことができるようになっている。

【0029】

前記壁3は、図1～図3に示すように、例えば、上部に位置する上壁部3aと、下部に位置する前記下壁部3bと、これら上壁部3aの両端部と下壁部3bの両端部との間に立設される側壁部3cとを枠状に組み立ててなる。

そして、これら上壁部3aと、下壁部3bと、側壁部3cとで囲まれた位置に、前記開口部4が設けられている。

40

【0030】

また、前記下壁部3bは、図2に示すように、フラットに形成された前記部屋1の床1aおよびバルコニー2の床2aに対して、側断面視において凸型に隆起したように立設されている。

なお、このような凸型の段差はいわゆる跨ぎ段差であり、この段差を乗り越えるためには、ただ単に段差の上部に足を上げるだけでなく、段差の上部に足を上げた後に段差の向こう側に足を運ばなければならない。しかしながら、前記ベンチ10およびデッキ20が、この跨ぎ段差である下壁部3bを介して連続的に、かつ略等しい高さとなるように配置されているので、前記部屋1とバルコニー2との間の段差を、跨ぎ段差から、単に部屋1の床1aとベンチ10上とを昇降するだけの単純段差へと変えることができ、前記部屋1

50

とバルコニー 2 とを行き来する際の安全性を高めることができる。

【0031】

また、前記開口部 4 にはサッシ 5 が取り付けられている。このサッシ 5 に設けられる窓としては、例えば折りたたみ窓のような全開放可能な窓が採用されている。この折りたたみ窓は、例えば引違い戸等に比して、開口部をより広く開放させることができるので好ましい。

【0032】

一方、前記ベンチ 10 は、図 2 に示すように、前記部屋 1 の床 1 a 上に立設される複数の脚部 12 a と、これら複数の脚部 12 a の上端部同士に架設される上部パネル 12 b とを有する基台 12 を備えており、この基台 12 の上部パネル 12 b の上面に、座板 11 が設けられている。

10

なお、この基台 12 は、前記上部パネル 12 b の先端が、前記脚部 12 a よりも部屋 1 側に突出するようにして形成されている。

【0033】

また、前記座板 11 は、前記ベンチ 10 の長さ方向に沿って長尺な複数の板材 11 b からなり、これら複数の板材 11 b は、これら複数の板材 11 b 間に設けられるとともに、これら複数の板材 11 b 同士を連結する連結ブラケット 11 c によって連結されている。

また、この座板 11 を構成する複数の板材 11 b のうち、部屋 1 側端部に位置する板材 11 b は、他の板材 11 b と直交する方向に、かつ下垂するようにして前記上部パネル 12 b の部屋 1 側端部に取付固定されている。

20

【0034】

また、前記上部パネル 12 b は、図 2 に示すように、前記複数の脚部 12 a の上端部同士に架設される複数の根太と、これら複数の根太の室内側端部間に架設される横木と、これら根太および横木の上面に取り付けられる面材とを備えている。

【0035】

さらに、前記複数の脚部 12 a のうち、室内側に配置される脚部 12 a の前面には、部屋 1 に露出する前面化粧板 12 f を取り付けするための前面下地板 12 e が取り付けられている。また、この前面下地板 12 e に取り付けられる前面化粧板 12 f の下端部は、前記部屋 1 の床 1 a から所定の隙間をあけて前記前面下地板 12 e に取り付けられており、この隙間に、前記部屋 1 の床 1 a に敷設されるフローリング材 1 b の端部が差し込まれるようになっている。

30

【0036】

そして、前記上部パネル 12 b の裏面には、前記前面下地板 12 e の上端部から前記上部パネル 12 b の横木の部屋 1 側端部にかけて、裏面下地板 12 c が取り付けられており、さらに、この裏面下地板 12 c の部屋 1 側端部と、前記座板 11 を構成し、かつ部屋 1 側端部に位置する板材 11 b とには、アングル材 12 d が取付固定されている。

【0037】

また、このように形成されたベンチ 10 の下面には、このベンチ 10 の下方を照らす照明装置（図示せず）が設けられている。

すなわち、前記上部パネル 12 b の先端は、上述のように、前記脚部 12 a よりも部屋 1 側に突出しており、この突出部分の下面側に、前記裏面下地板 12 c やアングル材 12 d が設けられており、このように突出した部分に、下方に向かって光を照射する照明装置が設けられているものとする。

40

これによって、前記ベンチ 10 の下部を明るくすることができるので、このベンチ 10 上にあがる際に、足等をぶつけにくくなるので、安全性が高い。

【0038】

なお、前記座板 11 は、図 2 に示すように、この座板 11 の開口部 4 側端部からバルコニー 2 側に向かって延出することによって前記下壁部 3 b の上面を覆う延出部 11 a を備えている。すなわち、この座板 11 を構成する複数の板材 11 b のうち、開口部 4 側端部に位置する板材 11 b の開口部 4 側端部に、前記延出部 11 a が備えられていることとな

50

る。

そして、この延出部 11 a で前記下壁部 3 b の上面を覆うことによって、前記ベンチ 10 を、前記バルコニー 2 側に突出させて範囲を広げたように見せることができる。これによって、前記ベンチ 10 とデッキ 20 とを、より連続的に見せることができるので、前記部屋 1 とバルコニー 2 との一体感を、より向上させることができる。

【0039】

なお、本実施の形態の延出部 11 a は、図 2 に示すように、前記下壁部 3 b の上面に取り付けられた調整材 3 d の上面を覆うようにして設けられている。

また、この調整材 3 d は、後述するサッシ 5 の下枠 5 a の部屋 1 側端部と略等しい高さとなるように設定されている。

10

【0040】

さらに、このように前記部屋 1 とバルコニー 2 との一体感を向上させる手段として、前記サッシ 5 の下枠 5 a を、前記下壁部 3 b の上端部に固定するとともに、前記ベンチ 10 の座板 11 の延出部 11 a と前記デッキ 20 の開口部 4 側端部との間に位置させることが好ましい。

これによって、このサッシ 5 の下枠 5 a によって前記ベンチ 10 の座板 11 の延出部 11 a と前記デッキ 20 の開口部 4 側端部とを連続的に見せることができるので、前記部屋 1 とバルコニー 2 との一体感を、さらに向上できるようになっている。

【0041】

さらに、図 2 に示すように、前記下枠 5 a の部屋 1 側端部および前記調整材 3 d のバルコニー 2 側端部の上部には、前記座板 11 の延出部 11 a のバルコニー 2 側端部と、前記サッシ 5 の下枠 5 a の部屋 1 側端部とを覆うカバー材 5 b が設けられている。

20

【0042】

また、前記ベンチ 10 は、図 1 に示すように、前記開口部 4 の幅寸法よりも幅広となるように形成されている。なお、本実施の形態においては、バルコニー 2 の側部に立設された壁部を超えて配置されており、前記壁 3 よりも幅広に形成されている。

これによって、前記バルコニー 2 に配置されたデッキ 20 が、部屋 1 側に突出して配置されたような印象を与える際に、より前記デッキ 20 を突出させたような印象を与えることができる。

また、同じく、前記ベンチ 10 の奥行き寸法を広く形成するようにしてもよい。これによって、より一層前記デッキ 20 を突出させたような印象を与えることができる。

30

さらに、このベンチ 10 は、前記開口部 4 から外れた位置に、凹型に形成された室内植栽部 13 を備えている。この室内植栽部 13 の底部は、前記部屋 1 の床 1 a となっており、つまり、前記ベンチ 10 の高さ分の深さに設定されていることとなる。

この室内植栽部 13 には、プランター・鉢等を設置して、このプランター・鉢等で花や観葉植物を栽培できるようになっている。

【0043】

一方、前記デッキ 20 は、図 1 ～図 6 に示すように、このデッキの上部に設けられることによって床面を構成するデッキ床 21 と、このデッキ床 21 を支持する基台 22 とを備えている。また、この基台 22 は、例えば複数の根太を縦横に架け渡ししながら前記バルコニー 2 の床 2 a 上に組み上げるなどして形成される。

40

また、前記デッキ床 21 は、前記ベンチ 10 の座板 11 を構成する複数の板材 11 b と同様の方向に長尺に形成された複数の板材 21 a を互いに連結してなる。

【0044】

そして、このデッキ 20 は、図 1 ～図 3 に示すように、前記開口部 4 を有する壁 3 を除くバルコニー 2 の周縁部から所定の間隔をあけて設けられており、このデッキ 20 と前記バルコニー 2 の周縁部との間が植栽部 2 b とされている。

この植栽部 2 b では、花や観葉植物等の植物を栽培できるようになっている。これによって、夏季の室温の上昇を抑制できたり、居住者が安らぎ感を得られたり等の緑化による様々な効果を得ることができるので、快適な居住環境を得ることができる。

50

【0045】

この植栽部 2 b には、プランター・鉢等を設置して、このプランター・鉢等で花や観葉植物を栽培することが好ましいが、例えば、前記バルコニー 2 の床 2 a に防水層や防根シート、排水設備を設けるなどして、この植栽部 2 b に直に土を入れて、花や草木を栽培するようにしてもよい。

また、この植栽部 2 b に、例えば紅葉する植物を栽培してもよい。これによって、居住者が様々なシチュエーションを楽しむことができるので、好ましい。

【0046】

また、このような植栽部 2 b の他にも、前記バルコニー 2 に、図 3 に示すように、植物を栽培できる緑化ルーバー 7 を設置するなどして、このバルコニー 2 の緑化を図るようにしても良い。本実施の形態の緑化ルーバー 7 は、前記開口部 4 を有する壁 3 と前記ルーバー 6 との間に立設されるバルコニー 2 の周壁部に沿って立設されている。

10

なお、前記植栽部 2 b や緑化ルーバー 7 には、給水源 2 c に接続されるとともに、タイマーや水量調節等の機能を有し、自動で水やりが可能な灌水制御装置 2 d を設けるようにしてもよい。

【0047】

また、快適な居住環境を得る手段として、緑化を図る以外にも、例えば前記バルコニー 2 には、このバルコニー 2 内の空気を加湿冷却する加湿冷却手段 8 が設けるようにしてもよい。本実施の形態の加湿冷却手段 8 は、前記ルーバー 6 や緑化ルーバー 7 の周囲に設けられているものとする。

20

【0048】

この加湿冷却手段は、図 3 に示すように、前記ルーバー 6 や緑化ルーバー 7 の上部付近に設けられる複数のノズル 8 a と、これら複数のノズル 8 a に水を供給する供給手段 8 b と、これら複数のノズル 8 a および供給手段 8 b を接続する給水パイプ 8 c とを備えている。そして、このノズル 8 a によって、極微細な水分（例えば 4 マイクロメートル程度）をノズル 8 a から噴霧でき、その噴射された水分の気化熱を利用することによって周囲を濡らさずに冷却できるようになっている。

また、このような加湿冷却手段 8 によれば、前記複数のノズル 8 a から噴射される極微細霧状の水分が気化する際の気化熱によってバルコニー 2 内の温度を低下させることができる。さらに、前記ルーバー 6 から風を取り込んで、前記部屋 1 内に吹き込ませることによって、この部屋 1 の温度も低下させることができるので、特に夏季における居住環境を格段に快適なものとする事ができる。

30

また、例えばバルコニー 2 をライトアップすることで、前記ノズル 8 a から噴射される細かな水分と光との相乗効果により、バルコニー 2 内を靄のかかったような普段とは異なる空間を作り出すこともできるので、居住者が様々なシチュエーションを楽しむことができ、好ましい。

【0049】

なお、前記ノズル 8 a から噴射された水分は、極微細で気化しやすいため、部屋 1 内に吹き込んだとしても、部屋 1 内を濡らすことがない。

また、前記ノズル 8 a の噴射口（図示せず）の大きさを調節可能とし、噴射される水分の大きさを調節可能としてもよいものとする。例えば噴射される水分を大きくして、前記植栽部 2 b の花や観葉植物等に水やりを行ってもよい。

40

【0050】

一方、前記デッキ 2 0 には、図 1～図 4 に示すように、前記デッキ床 2 1 と前記バルコニー 2 の床 2 a との間に収納部 2 3 を設けるようにしてもよい。これによって、前記バルコニー 2 で使用する物品や外部で使用する物品を収納することができるので、好ましい。

【0051】

また、本実施の形態の収納部 2 3 は、図 4 に示すように、上方に向かって開口する取り出し口 2 4 と、この取り出し口 2 4 を開閉する蓋部 2 5 とを備えており、この蓋部 2 5 の上面には、上面が、前記デッキ床 2 1 の上面と面一となる補助床材 2 5 a が取り付けられ

50

ている。

なお、前記蓋部 2 5 には、図示はしないが、この蓋部 2 5 の表面に突出しない把手が設けられていることが望ましい。

また、この蓋部 2 5 は、この蓋部 2 5 の下面周縁部にパッキン等（図示せず）を設けることによって前記収納部 2 3 を水密に閉塞することができるようになっている。

【0052】

このような収納部 2 3 によれば、前記収納部 2 3 は、上方に向かって開口する取り出し口 2 4 と、この取り出し口 2 4 を開閉する蓋部 2 5 とを備えているので、この蓋部 2 5 によって前記取り出し口 2 4 を確実に開閉できる。

また、前記蓋部 2 5 の上面には、上面が、前記デッキ床 2 1 の上面と面一となる補助床材 2 5 a が取り付けられているので、前記デッキ 2 0 上に段差が生じることを防ぐことができ、前記デッキ床 2 1 上を障害なく歩行できる。しかも、これら補助床材 2 5 a とデッキ床 2 1 とを一体的に見せることができるので、前記蓋部 2 5 の存在を目立たなくすることが可能となっている。

【0053】

また、このような収納部 2 3 を前記デッキ 2 0 に設ける際は、前記デッキ 2 0 を構成するデッキ床 2 1 に前記収納部 2 3 を入れ込むための開口を形成するとともに、前記収納部 2 3 を設置するためのスペースを確保しながら前記基台 2 2 を形成する。

【0054】

なお、このような収納部 2 3 の他にも、図 5 に示すように、例えば前記植栽部 2 b 側に向かって開口する取り出し口 2 4 A と、この取り出し口 2 4 A を開閉する扉部 2 5 A とを備える収納部 2 3 A を採用してもよいものとする。

このような収納部 2 3 A によれば、前記扉部 2 5 A によって前記取り出し口 2 4 A を確実に開閉できるだけでなく、物品を側方向から前記収納部 2 3 A に収納したり、前記収納部 2 3 A から取り出したりすることができる。

これによって、例えば前記デッキ床 2 1 に収納部 2 3 を入れ込むための開口を形成したり、収納部 2 3 の蓋部 2 5 に補助床材 2 5 a を取り付けたりする必要がなくなるので、好ましい。

【0055】

なお、図 6 に示すように、この収納部 2 3 A と、前記収納部 2 3 とを、同時に前記デッキ 2 0 下に設けてもよく、これら収納部 2 3、2 3 A を並設してもよいものとする。これら収納部 2 3、2 3 A を並設するは、隣り合う収納部 2 3、2 3 A 間に仕切り壁 2 6 等を設けて仕切るようにしてもよい。

【0056】

本実施の形態によれば、前記部屋 1 には、前記下壁部 3 b に当接して配置されるとともに、前記下壁部 3 b と略等しい高さに設定されるベンチ 1 0 が設けられており、前記バルコニー 2 には、前記下壁部 3 b に近接して配置されるとともに、前記下壁部 3 b と略等しい高さに設定されるデッキ 2 0 が設けられているので、前記下壁部 3 b が目に入り難くなるとともに、この下壁部 3 b を跨いで前記部屋 1 とバルコニー 2 とを行き来する必要性がなくなる。しかも、前記ベンチ 1 0 とデッキ 2 0 とを、前記下壁部 3 b を介して連続的に、かつ略等しい高さとなるように配置できるので、前記部屋 1 からバルコニー 2 を眺めた際に、前記バルコニー 2 に配置されたデッキ 2 0 が、部屋 1 側に突出して配置されたような印象を与えることができる。

これによって、従来に比して、前記部屋 1 とバルコニー 2 との一体感を向上させることができるので、居住者は、前記部屋 1 からバルコニー 2 を眺めた際に、前記部屋 1 にいながらにして、庭にいるような開放感を得ることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0057】

【図 1】本発明のバルコニー付き住宅を示す平面図である。

【図 2】部屋とバルコニーとの境を示す断面図である。

10

20

30

40

50

【図3】 部屋の一部とバルコニーとを示す断面図である。

【図 4】 デッキ床とバルコニの床との間の収納部の一例を示す断面図である。

【図 5】 デッキ床とバルコニの床との間の収納部の一例を示す断面図である。

【図6】 デッキ床とバルコニの床との間の収納部の一例を示す断面図である。

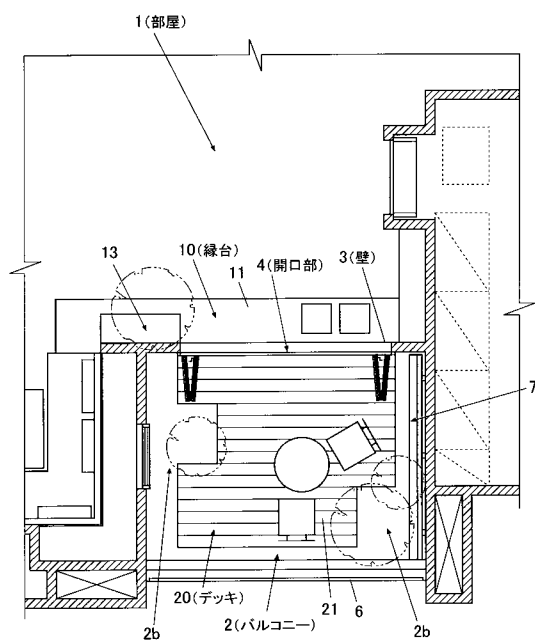
【符号の説明】

【 0 0 5 8 】

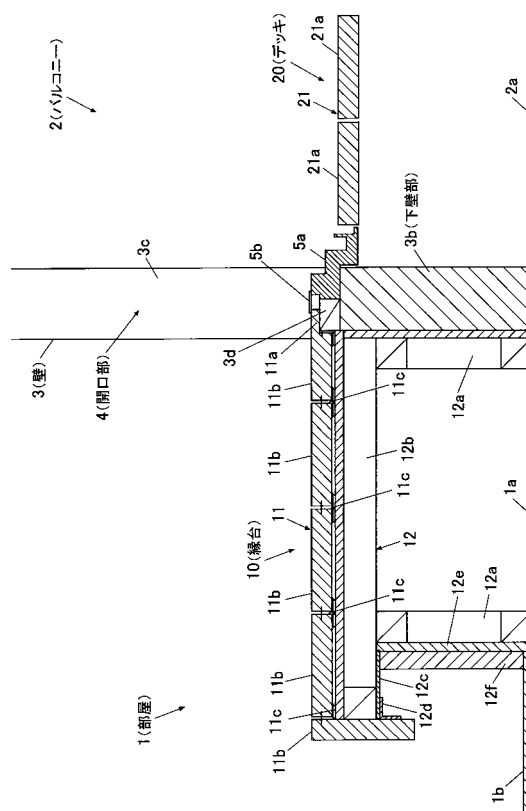
- 1 部屋
2 バルコニー
3 壁
3 b 下壁部
4 開口部
1 0 ベンチ
2 0 デッキ

10

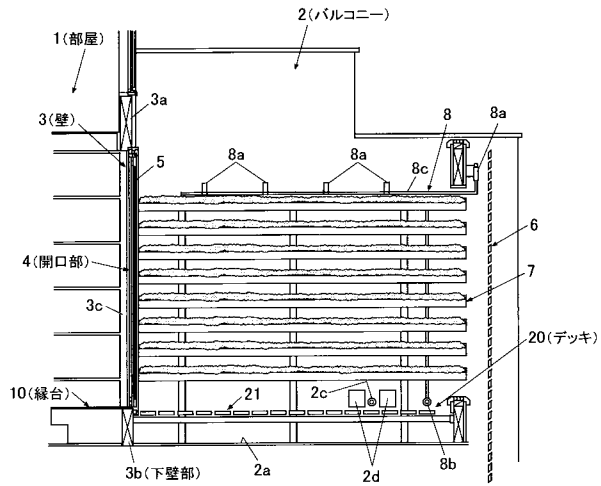
【図 1】



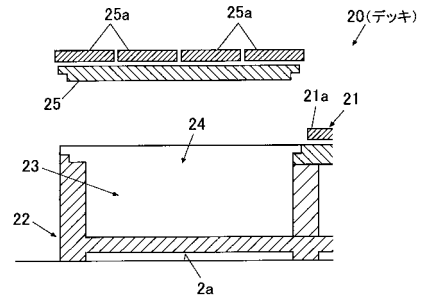
【図 2】



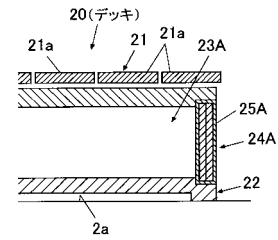
【図 3】



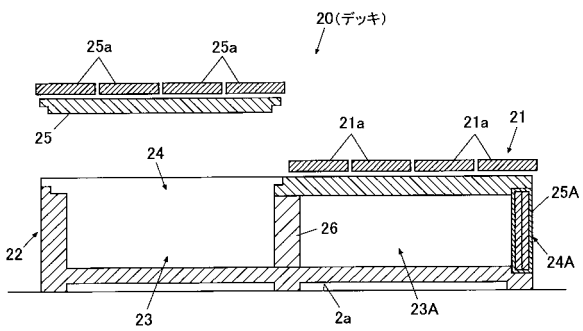
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

- (72)発明者 畠山 佳
東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミサワホーム株式会社内
- (72)発明者 長谷川 恵美
東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミサワホーム株式会社内
- (72)発明者 石澤 三香子
東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミサワホーム株式会社内

審査官 五十幡 直子

- (56)参考文献 特開2005-220562 (JP, A)
特開2002-227534 (JP, A)
特開2001-241197 (JP, A)
特開2002-138571 (JP, A)
実開昭63-156302 (JP, U)
実開昭63-156301 (JP, U)
特開平03-250151 (JP, A)
特許第2876343 (JP, B2)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
- | | |
|------|------|
| E04B | 1/00 |
| E04H | 1/02 |